

【リース最前線】

今回は少し趣向を変え、先日参加した講演会の話の一部紹介させて頂きたいと思います。

講師は北京オリンピックメダリストの朝原宣治さん。指導者の観点から『どう夢を与え、目標に向かって努力を継続し、良い結果を残させるか』。幼少の頃から北京オリンピックまでの具体的な事例を織り交ぜながらの話は非常に共鳴できるものでした。

その中で、北京オリンピックにおける400mリレーでは、日本人選手4人の100mのベストタイム合計は世界で10番目。アメリカは抜けてトップ。そのアメリカが決勝の8チームにも残れず、日本が銅メダルを取れたのは、なるべくしてなった結果であると思ふ。それは、個人技術（努力含む）と起用法（適材適所、指導者の判断力）と精神論（ベクトルを合わせる、協調性、信頼性、諦めずポジティブに考える）の総合力勝負で勝ったことです。

さらに紐解くと、まずコースを研究し（1走目はコーナーを上手く走る、

包装リースだより⑤

株式会社日本包装リースは、日本包装機械工業会の会員が出資して設立した包装機械・関連機械の専門リース会社です

2走目はバトンを受けて渡すまで100m以上走る、3走目はバトンを受ける所も最終走者

に渡す所もコーナー）、各走者の技術、性格を把握して配置を決め、気分を盛り上げながら練習を繰り返す。そして全力疾走の中でバトンを受けて渡すという繊細な事をするためには互いの信頼感が最重要。普段はライバルとして競いあっている者同士が、打ち解けたり、相手の長所を生かそうという練習はなかなかできない。それができなかったのがアメリカ。それができた日本は、リレーであれば個人では勝てなくても組織として勝つチャンスがあったということ。ちなみに、朝原さんは持ちタイムが日本人で最も速いから第4走者になった訳ではなく、コーナーの得意な人が他にいて、また、自分は受けて渡すような繊細な事がへた、性格的にレース中は冷静になりやすく、バトンをつないでもらえれば頑張る（力を爆発できる）タイプだったからだそうです。

日本包装リースは包装関連業界に特化している強みを生かし、まだ

業界に浸透していない
定期点検付きリースや
レンタル（短期リース）
システムをエンドユー
ザー、メーカーおよび株
主様と一緒に構築して、
一緒に発展していきたい
と思っています。今
後とも宜しくお願い致
します。

東日本営業部

部長 山本亨